

月刊

# 地域保健

9  
2014

●特集

## 地域における感染症のリスクマネジメント

●フロントランナー

秋山公代さん《笛吹市 保健福祉部 健康づくり課 母子保健担当 主幹保健師》

●ピープル

やなせななさん《シンガーソングライター、僧侶》



## 6 特集

地域における感染症の  
リスクマネジメント

- 8 【総論】最近の感染症の話題
- 12 【風疹/麻疹】風疹と麻疹はMRワクチンでの予防を
- 20 【風疹/麻疹】風疹のない社会へ《神奈川県風しん撲滅作戦》
- 24 【風疹/麻疹】「はしかゼロ」を目指して《福井県の麻疹対策》
- 30 【新型インフルエンザ】鳥インフルエンザ H7N9 を正しく知る
- 36 【新型インフルエンザ】情報提供、要援護者、風評被害、予防接種に重点  
《京都市新型インフルエンザ等対策行動計画》
- 42 【動物由来感染症】近年明らかになった重症熱性血小板減少症候群

1 フロントランナー▶ 秋山公代さん(笛吹市 保健福祉部 健康づくり課 母子保健担当 主幹保健師)

48 REPORT・1▶ 東京都医学総合研究所シンポジウム「あらたな難病施策と難病保健」

52 REPORT・2▶ 生活保護問題対策全国会議 設立7周年記念集会

72 ニュース▶

97 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ!

城 諒子さん(白川村役場村民課)

102 ピープル▶ やなせななさん(シンガーソングライター、僧侶)

## 連載

- |    |                        |      |
|----|------------------------|------|
| 58 | 保健師のための閑話ケア《第45回》      | 藤本裕明 |
| 62 | 中臣さんの 環境衛生ウォッチング《第30回》 | 中臣昌広 |
| 67 | いまだき子育てアドバイス《第204回》    | 中川信子 |

## 情報BOX

81 ……訪問に役立つ“安心・安全”の豆知識、BOOK、月間リーダー、  
information、月間リーダー special edition?

秋山公代  
さん

● 笛吹市 保健福祉部 健康づくり課 母子保健担当 主幹保健師



乳幼児から就業まで、いつでも相談できる仕組みづくりを

関係者の連携で発達障害児(者)を支える

甲府盆地のほぼ中央に位置する笛吹市。ぶどうと桃の日本一の産地で、石和温泉郷を抱える観光名所としても知られている。そんな環境の中で育った秋山公代さんは、地元で保健師のキャリアをスタートして以来、「発達障害」のある子どもたちの支援に尽力してきた。

## 温泉と農業の町で 経験したこと

もともと子どもが好きで、将来は保育士になろうかと思っていたという。それが、中学のときにたまたまテレビのニュースで、看護師が不足していることを知った。「こんな大切な仕事をする人が不足するなんて信じられない」と思った秋山さんは、「それなら自分がなろう」と決意したそうだ。

山梨県立高等看護学院（県立大学の前身）に進み、3年間の勉強の末に念願の看護師免許を取得。だが、当初の

予定とは異なり、看護師の道へは進まなかった。

「あともう一年、保健婦学科に行けば、保健師と養護教諭の資格が取れるので、受験してみることにしました。実は、仲のよかった友達に半ばつられるような感じだったのですが、思いがけず合格。保健師の勉強を始めたのはそのときからだったのです」と言う。

保健婦学科での1年間は授業も厳しく、学生生活の中でいちばん勉強をしたそうだ。甲府市の学校周辺をフィールドに、かなり実戦的な実習も経験した。そんな中で、次第に保健師という仕事に魅力を感じるようになっていったようだ。

地元の石和町の保健師求人を見て、迷わず応募。面接試験だけでスムーズに採用が決まり、1984（昭和59）年、晴れて石和町の保健師となった。

ちなみに、笛吹市は、2004（平成16）年の町村合併で、石和町を含む



7町村が一緒になってできた新しい市。今でこそ市役所には27人もの保健師がいるが、秋山さんが石和町に就職したときは、たった4人だった。しかも先輩の1人がすぐに産休に入ったため、新人研修に行かないまま、即戦力として仕事をこなした。その際に役立つのが、学生ときに現場でかなり実習を積んだことだった。

新人時代に、家庭訪問を通じて感じたのは、「この町にはいろんな人がいる」ということ。それは、石和町の住

外国人旅行者の増加、海外への渡航、動物の輸出入や物流が盛んになったことで、海外で発生した感染症は日本に侵入しやすくなり、パンデミックの危険性が高まっている。

保健、医療に携わる者は、常に国内外の情報を収集しながら、予防策を確実に行うことが重要だ。

今月号では、近年増加傾向にある感染症や油断できない病原体を取り上げながら、地域における感染症への取り組みを紹介する。

## 総論

- P8 最近の感染症の話題**  
〈取材協力〉◎加來浩器さん（防衛医学研究センター）

## 風疹／麻疹

- P12 風疹と麻疹はMRワクチンでの予防を**  
〈取材協力〉◎多屋馨子さん（国立感染症研究所）
- P20 風疹のない社会へ―「神奈川県風しん撲滅作戦」**  
◎原田潔（神奈川県）
- P24 「はしかゼロ」を目指して―福井県の麻疹対策**  
◎手賀晴信（福井県）

## 新型インフルエンザ

- P30 鳥インフルエンザ N7N9 を正しく知る**  
〈取材協力〉◎石田直さん（倉敷中央病院）
- P36 京都市新型インフルエンザ等行動計画**  
◎山本洋平（京都市）

## 動物由来感染症

- P42 近年明らかになった重症熱性血小板減少症候群**  
〈取材協力〉◎岸本寿男さん（岡山県環境保健センター）

# 地域における 感染症の リスクマネジメント

総論

# 最近の感染症の話題

アウトブレイクを防ぐには、公衆衛生基盤の構築が重要

●お話を伺った人●



加来浩器さん  
防衛医学研究センター

(かく・こうき 感染症疫学対策研究官 教授)

交通の発達で、人や病原体が世界中に拡散し、遠い国のことだと思っていた海外の感染症も、私たちの身近に忍び込んできている。さらに未開地への人間の進出が広がるとともに、次々と新興感染症も発生している。アウトブレイクを防ぐためには、やはり平時からの感染症対策が重要だ。

文・白井美樹 (ライター)

## 多発する腸管出血性大腸菌

現在の日本における感染症の動向としては、夏場は「食中毒」、冬場は「ノロウイルス」の多発が気になります。

感染症のうち、食べ物が原因の感染症は、「食中毒」として扱われます。その中でも近年クローズアップされているのが、O157をはじめとする「腸管出血性大腸菌」による食中毒です。この食中毒は、冬は少なく、春先から出てくるのが特徴で、今年は何年にもないほど多く発生しています。

ちなみに、感染法では、腸管出血性大腸菌、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスの5つを第三類感染症として指定。これらは、集団発生を起す危険性が高いとして早急な届出が必要とされています。この5つの中で、近年、腸管出血性大腸菌の報告数が群を抜いて多くなっています。

## 昆虫や動物を媒介する感染症

ところで、最近、危機管理が必要な感染症として話題になっている疾患が幾つかあります(表)。その一つが、「重症熱性血小板減少症候群」(SFTS)です。

この感染症は、ダニが媒介することによって感染し、発熱、腹痛、嘔吐、下痢などが主な症状で、感染者の致死率が10〜30%という怖い病気です。昨年あたりから西日本を中心に発症・死

亡の報告が相次いでいますが、関東以北からも同じウイルスを保有するダニが見付かっており、いつどこで発症してもおかしくない状況となっています。

また、昨年から今年にかけて、国内で感染したとされる「デング熱」の発生が話題となっています。デング熱は蚊が媒介する感染症で、主な症状は、発熱、頭痛、筋肉痛、発疹などです。こちらのほうは、重症にならない限り命に別状はありません。発症者は、流行中の東アジアで感染したのか、日本

「ノロウイルス」はやはり食中毒の部類に入りますが、冬になると多くなるのが特徴です。年間を通して日本で患者数が多い食中毒としては、現在第1位がこのノロウイルスで、第2位が「カンピロバクター」です。

10年ひと昔といいますが、昔は食中毒で多かったのが、「腸炎ビブリオ」と「サルモネラ菌」でした。腸炎ビブリオの主な感染源は魚介で、サルモネラ菌は卵が由来でした。これらの食中毒が減ったのは、明らかに漁業関係者や卵生産者の減菌への努力があったからです。

これに対し、ノロウイルスとカンピロバクターは、10年間ほとんど同じ発症状況です。主にノロウイルスは貝類、カンピロバクターは鶏などのレバーや生肉に生息する菌なので、発生件数を減少させるためには、調理者の意識改革が重要と考えられます。

### 表 最近の感染症危機管理の話題

#### 海外での発生

- エボラ出血熱が西アフリカでアウトブレイク中
  - ・ギニア、リベリアでの発生
- 中東呼吸器症候群 (MERS) の拡大
  - ・ヨーロッパ各地、さらにアジアへも飛び火 (フィリピン、マレーシア)
- 鳥インフルエンザH7N9の発生
  - ・中国各地、台湾、マレーシアでも輸入例として発生
- フィリピンでの麻疹の猛威

#### 国内での発生

- 重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV)
- 輸血による感染
- 麻疹・風疹をめぐる問題
- その他の問題
  - ・日本を旅行中に感染したと思われるデング熱患者の発生
  - ・馬肉を食べて腸管出血性大腸菌 O-157 (福島県産馬肉のリコール)
  - ・鳥インフルエンザH5N8の熊本県での検出 (韓国流行株と同一ウイルス株)



# 白川村の生活や風習を守りつつ この土地ならではの健康指導を考えたい

たった一人の保健師としての責務

しろ りょうこ  
城 涼子さん

●白川村役場村民課



文：太田美由紀（ライター） 写真：C.Kent

緑深い山に囲まれた田畑に、茅葺き屋根が美しく映える合掌造りの家屋。まるで昔話の世界に迷い込んだような風景が眼下に広がる。岐阜県大野郡白川村は、「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界遺産に登録されており、国内外から観光客が訪れる。

そんな白川村で、村の人たちの健康を守るために奔走しているたった一人の保健師（正職員）、白川村役場村民課の城諒子さんを訪ねた。

## 母や叔父のように 誰かの役に立つ仕事を

城さんは白川村に入職して3年目。生まれは富山県、立山連峰を望む立山町だ。立山は日本百名山の一つで標高3千メートルを超えるが、なんと3歳で初登頂を果たしたという。

「山好きの両親に連れられて、小学生くらいまではあちこちの山を登りました。中学校では水泳部と手芸部に入っ

ていて、体を動かすことや自然は好きでやんちゃでしたけど、性格はのんびりしていましたね。手芸は今でも大好きで、この週末には、手作りでがま口のポーチを作りました」

城さんの母は看護師で、3つ年上の姉を出産後、夜勤のある病院を辞め、特別養護老人ホームで働いていた。母の友人には医師や看護師が多かった。

「私が小学校2年生のころ、母の医療系の友人たちと山に行ったときに、崖から落ちて頭にケガをした人の緊急オペを山小屋ですることになったんです。私も間近でその様子を見ていました。母はもともと手術室にいたので、実際にそのオペに参加している姿を見て、すごくカッコいいなと思いました。医療職に憧れ始めたのはそのころからかもしれません」

看護師は大変だと母から聞かされていたものの、医療職への憧れが生まれ、また叔父が警察官だったため、「誰か



▲合掌造りの中を、城さんの乗る車がゆっくりと走る。白川村の日常の光景だ

の役に立てる仕事をしたい」という気持ちが高まっていった。

高校卒業後、保健師を目指して富山大学医学部看護学科に進学。さらに、地区組織活動を勉強したいと同大学院にも進み、ヘルスボランティアや保健推進員などにインタビュアーをして、地区組織活動ならびに地区の活性化について研究した。

もう一度いのちの歌を唄いたい〜「歌う尼さん」を離れて  
デビュー10周年を機に生き方を自問し歩んでいきたい



## やなせななさん

聞き手 高田英弦（医療記者）

奈良県高取町に江戸末期から続く、浄土真宗本願寺派の小さな寺がある。檀家はわずか30軒。代々「兼業寺院」として継がれてきた。この寺で生まれ育った現住職、やなせななさんは23歳で僧籍を取得。その傍ら在学中に始めた音楽活動を続け、2004年にシングル曲『帰ろう。』で全国デビューを果たした。しかし、CDは売れず、やがて子宮体がんに見舞われた。子宮卵巣全摘により一命を取り留めるも心身の後遺症に苦しんだ。08年から全国の寺院でコンサート&トークショーを展開。ファン層を広げてきた。やなせさんのこれまでの人生を尋ねた。

### いじめに苦しんでいる間 大好きな歌が心の支えに

—どんな子どもでしたか。

**やなせ** 3人きょうだいの末っ子で、おとなしくおっとりした性格。運動が大の苦手で本を読んだりして過ごすのが好きでした。本堂でお経を読んだり寺の仕事を手伝ったりするのも嫌ではなかった。勉強好きで成績優秀な兄と姉が寺に全く関心を示さなかったのは対照的でした。

内気な上、小学校2年生まで体も小さかったので同級生からいじめの標的にされました。学校に行くと男子から殴られたり蹴られたり、女子からは暴言を浴びせられたり無視されたりし、

毎日が生き地獄のようでした。体育の授業中に何度もボールをぶつけられ、腕や足が赤くはれ上がったこともあり、ました。加害児以外は見えて見ぬふり、教師は私に非があるとして取り合ってくれませんでした。

助けてくれたのは母でした。当時朝から晩まで仕事に追われ、家事・育児

## PROFILE

●やなせ・なな●

1975年、奈良県の寺家に生まれる。幼少時より読経をそらんじ歌うことを愛してやまず、中学校では合唱部に所属。四天王寺高校を経て龍谷大学文学部に進学。学内外の軽音楽バンドに加わりボーカリストとして活動を始め、学卒後プロを目指した。2004年6月、シングル『帰ろう。』でデビュー。05年5月、アルバム『あいのうた』発売。08年3月から仏教系寺院でのコンサート&トーク活動を展開。13年9月に同活動の依頼受付を休止し、新たな活動を模索する日々を送っている。

は祖母にほとんど任せていたのですが、私がいじめに遭っているとの情報を耳にするや学校に乗り込み、いじめていた子どもを怒鳴り付けてくれたのです。私は仕返しされるに違いないと身構えました。ところが母の真剣な怒りは幼き加害児らを圧倒し、その日以来私へのいじめ行為はなくなりました。